

もっといい
ビジネスカーを
つくろう!

日本のビジネスマンをサポートするコマーシャルバン

現場の期待に応えるクルマ

クラストップレベルの

環境性能

安全性能

進化したプロの道具登場!



新プロボックス

「働く者の味方」として多くのビジネスマンに愛されてきたプロボックス。そのプロボックスがマイナーチェンジを受けて新登場。マイナーチェンジとはいえフロントスタイルはぐっと凛々しくなり、プラットフォームの改良などでシャシーも見直されて走行性能も一段と進化。そして「仕事場」としても評価の高かったインテリアも一新され、一日中乗っていても疲れにくく、仕事もこなせるクルマとしてのパフォーマンスをさらに向上させてきた。運転しやすく、荷物もたっぷり積める箱型ボディはそのままに、時代の要請に合わせ燃費を向上させ、トヨタの最新テクノロジーの投入によって安全性も格段に進化。見どころ満載の新型プロボックスの「頼れる相棒ぶり」に迫ってみよう。



発行所
日刊自動車新聞社
東京都港区芝大門1丁目10番11号
芝大門ビル3階
電話 東京 (03) 5777-2351 代表

TOYOTA

新型
プロボックス

特集号



ProBox

1.5ℓ2WDは18.2km/ℓ、全車「エコカー減税」対象

文/田畑 修(モータージャーナリスト) 写真提供/TOYOTA

日本のモータリゼーションの
発展のなかで、商用車の
果たした役割は大きい。

戦後の経済復興、高度経済成長、バブル経済を経て現在の成熟社会に至るまで、商用車が経済発展を支え、乗用車に先駆けてクルマ社会を構築してきたといっても過言ではないだろう。トヨタが1935年に日本で最初に商品化したクルマもG1型大型トラックであったし、戦後の復興期、高度経済成長時代には次々とトラックやコマーシャルバンを世に出し、多くの人やモノを運んで経済発展に貢献してきた。



パブリカバン(UP16V型)

1966年の「マイカー元年」以降、乗用車が脚光を浴びる時代となつてからもトヨタは主要乗用車モデルには必ずといっていいほどコマーシャルバンを設定し、その一部はステーションワゴンとして発展してきた。そうしたコマーシャルバン専用モデルとして2002年7月にプロボックスとサクシードが登場。「ビジネスカーの革新」をキーワードに、快適性をも兼ね備えたコマーシャルバンとして多くのユーザーの支持を得て販売台数も増加。その優れた資質はもちろん新型にも受け継がれている。

Commercial vehicle history of Toyota

トヨタの商用車の歴史
～G1トラックから80年～



コロラバンデラックス

プロボックス 主要諸元表	2WD				4WD			
	1.3L		1.5L		1.5L		1.5L	
グレード	GL	DX	F	GL	DX	F	GL	DX
トランスミッション	Super CVT-i (自動無段変速機)							
車両重量 (kg)	1,090				1,170			
JCO8モード燃費 (km/ℓ)	17.6		18.2		15.8			
駆動方式	前輪駆動方式				四輪駆動方式			
全長×全幅 (mm)	4,245×1,690							
全高 (mm)	1,525				1,530			
ホイールベース (mm)	2,550				2,550			
トレッド	前 (mm)		1,485		前 (mm)		1,485	
	後 (mm)		1,465		後 (mm)		1,455	
荷室	長さ 2名乗車時/5名乗車時 (mm)		1,810/1,040		長さ 2名乗車時/5名乗車時 (mm)		1,420/1,415	
	幅 2名乗車時/5名乗車時 (mm)		935		幅 2名乗車時/5名乗車時 (mm)		935	
最低地上高 (mm)	140				130			
最小回転半径 (m)	4.9				2.5			
乗車定員 (名)	2/5				2/5			
エンジン形式	1NR-FE				1NZ-FE			
種類	直列4気筒 DOHC				直列4気筒 DOHC			
総排気量 (ℓ)	1,329				1,496			
最高出力 (kW/PS/rpm)	70<95>/6,000		80<109>/6,000		76<103>/6,000		76<103>/6,000	
最大トルク (N・m/kgf・rpm)	121<12.3>/4,000		136<13.9>/4,800		132<13.5>/4,400		132<13.5>/4,400	
燃料タンク容量 (ℓ)	50				50			
使用燃料	無鉛レギュラーガソリン				無鉛レギュラーガソリン			
ステアリング形式	ラック&ピニオン式				ラック&ピニオン式			
サスペンション 前/後	ストラット式コイルスプリング/ラテラルロッド付トーションベークリンク車軸式コイルスプリング				ストラット式コイルスプリング/ラテラルロッド付トーションベークリンク車軸式コイルスプリング			
ブレーキ形式 前/後	ベンチレーテッドディスクブレーキ/ドラム				ベンチレーテッドディスクブレーキ/ドラム			
タイヤ&ホイール	155/80R14 88/86N LT タイヤ&14×5 Jステールホイール				155/80R14 88/86N LT タイヤ&14×5 Jステールホイール			

主要諸元表はメーカーの発表資料をもとに作成しています。詳しくは販売店にお問い合わせください。

PROBOX
Color Variations



▶ホワイト



▶シルバーマイカメタリック



▶ブラックマイカ



▶ボルドーマイカメタリック



▶ライトグリーンメタリック



▶ダークブルーマイカメタリック

ProBox





荷室長 (奥行き) は5名乗車時で1040mm、2名乗車時なら1810mmが確保され、荷室幅は1420mm、荷室高は935mmとかさばる長尺物でも積み込むことができる。さらにホイールハウスの張り出しを抑えたレイアウト、低くフラットな床面など、隅々まで使えるスペース効率の高さも見逃せない。バックドアの最大オープン高も1800mmと大きく開くので、積み込み作業の労力を減らすことができる。最大積載量は2名乗車時で400kg、5名乗車時で250kgと十分確保されている。



プロボックス・パフォーマンス

新型プロボックスはシャシー、エンジンともに大幅に進化。まずプラットフォームはフロント部分が刷新され、それに合わせてサスペンションも最適化。車両全体の剛性が高まったことで操縦安定性、乗り心地や静粛性ともにワンランク上のレベルに達している。高速走行時の安定感も増しており、緊急回避性能の向上は安全性にも貢献。電動パワーステアリングの採用で操舵性も向上し、フル積載時でも快適かつ安全に目的地を目指すことができる。余裕のパワーと燃費性能を両立した1.5ℓエンジンに加え、実用性に優れた1.3ℓエンジン搭載車も用意。エンジンブレーキを有効活用できるSuper CVT-iは積載時でも安定した走行を約束してくれる。1.5ℓ車には山間部や降雪地で威力を発揮する4WD車も用意される。



安全性

最新テクノロジーの投入で安全性も飛躍的に向上した新型プロボックス。急ハンドル時や滑りやすい路面での横滑りを制御し、常に姿勢を安定させるVSC(ビークル・スタビリティ・コントロール)と、発進・加速時に駆動輪の空転を防ぐTRC(トラクション・コントロール)を全車に標準装備。また、車速が55km/h以上のときに急ブレーキを踏むとハザードランプが自動点滅する緊急ブレーキ信号も装備し、事故を未然に防ぐ予防安全性能がしっかり確保されている。一方でボンネットやバンパーの衝撃吸収性能を高め、事故時の歩行者へのダメージを軽減する歩行者傷害軽減ボディを採用するなど、万一の事態にも備えている。全方位の安全性を高めた点に注目したい。

プロボックス・クラストップの燃費性能

コマーシャルバンとしてクラストップの燃費性能を与えられた新型プロボックス。1.5ℓの1NZ-FE型VVT-iエンジン搭載車は2WDで18.2km/ℓ、4WDで15.8km/ℓの低燃費を達成し、1.3ℓの1NR-FE型Dual VVT-i エンジン搭載車も17.6km/ℓ (いずれもJC08モード値) を実現。全車がエコカー減税の対象となっている。1.5ℓエンジンは圧縮比のアップ、吸気ポートの改善などによって効率を高め、さらに各部のフリクションの低減などで出力、トルクなどを犠牲にせずに燃費性能を向上させている。一方の1.3ℓエンジンは吸排気のタイミングの最適化などにより、中低速トルクを確保しながらも低燃費性能を確保。高い経済性を実現することでランニングコストを確実に低減している。



シートバック一体可倒式 リヤシート



フロントサスペンション



リヤサスペンション

コマーシャルバンの重要な役目である「運ぶ」機能も抜かりない。箱型ボディのメリットを生かした荷室スペースはムダのない形状で容量を稼いでおり、予想を上回る収納力を秘めている。

収納力もバツグン!

ノートPCやお弁当もラクに置けます!

インパネテーブル

インパネトレイ

A4 バインダーも気軽に収納!

携帯電話をホルダーにいれたまま充電できる!

マルチホルダー(スマートフォン)

アクセサリソケット

アクセサリコンセント

1リットルの紙パックも置ける!

ビジネスバッグもきちんと収まる!



Engineer's Voice

トヨタ自動車 製品企画本部 開発主査 下村修之さん



開発にあたっては、購入を決定される経営者に加えて、実際の使用者という2種類のお客様の声を、それぞれヒアリングしました。購入決定者は「荷物が積めて、丈夫で長持ち、ランニングコストが安く、安全に配慮されたクルマ」を求めています。また実際の使用者は「クルマの中で過ごす時間が長く、「仕事で使うので楽に使えるクルマがいい」としています。このため、箱型の荷室やリヤの足回りなど大切なところは維持した上で、疲れにくく扱いやすい「快適な走り」と、使い勝手のいい「運転席まわり」をつくりあげました。「働く人を応援したい」という私たちのメッセージを感じていただきたい。

1.5F (2WD)



ProBox



1.3DX



リクライニング角度 76° フロントシート

インテリア

「働く場」でもある室内をより機能的に上げてある点にも注目したい。たとえばエアコン&ヒーターは最大冷房能力を向上させると同時に、吹き出し口を大型化して素早く冷暖房が効くように工夫されている。乗り降りが多く、ドアの開け閉めも多いビジネスシーンを考えた設定だ。身体を預けるシートの構造および形状も見直され、最新のシート骨格の採用によりフィット感、ホールド感ともに高めている。長時間運転しても疲れにくいだけでなく、コーナリング時の保持性を高めることで安全性にも貢献している。また、シートスライド量およびシート高の調整幅も拡大され、体格に関わらずベストポジションを得ることができる。シンプルだが居心地のいい空間が嬉しい。



1.5GL (2WD)

ユーティリティおよび運転席周りの収納

車内で過ごす時間が長く、かつ仕事も車内でこなす必要もあるコマーシャルバンならではのニーズに応えた運転席周りの工夫やアイデアも見逃せない。1リットルの紙パック飲料も置けるドリンクホルダー、ノートパソコンを開いて操作することができ、ときには弁当も上げられる大型で堅牢なつくりのインパネテーブル、携帯電話やメモ帳などをしっかり保持してくれるマルチホルダーなど、従来から評価の高かったアイテム類がさらに充実。また、A4バインダーを横向きで収納できるインパネトレイ、収まりよくビジネスバッグを置けるセンターコンソールトレイなど、まさにかゆいところに手が届く配慮で収納スペースなどを設定。使い勝手よさはコマーシャルバンならではの。

多面体のカタマリ感をイメージしたというフロントビューは、多角形をモチーフとした「大きな眼」のヘッドランプ、新デザインのフロントグリルとともに、プロボックスの特徴である箱型スタイルを力強く仕上げている。リヤコンビネーションランプも多角形としてフロントと調和をとり、水平基調のサイドビューとともにシンプルながら飽きのこないデザインとなっている。奇をてらった部分はないが、ムダのない「機能美」が感じられ、毎日ハンドルを握る人の満足感も高いはずだ。ボディカラーはボルドーマイカメタリックとライトグリーンメタリックが新色として加わり、従来のコマーシャルバンのイメージをちょっと変えてみたいというニーズにも応えている。



1.5ℓ (2WD) ブラックマイカ

1.5ℓ 2WDは 18.2km/ℓ、全車「エコカー減税」対象